

地域包括ケアシステムの構築に向けて － 病院薬剤師の役割 －

座長 秋山 哲平[†] 西野 隆^{*}第72回国立病院総合医学会
(2018年11月10日 於 高松)

IRYO Vol. 75 No. 3 (226-228) 2021

要旨

団塊の世代が75歳以上となる2025年問題を念頭に、高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を営み、そのための医療、介護、介護予防等の支援が確保されることを目的とした地域包括ケアシステムの構築が急がれている。切れ目ない医療介護サービス、サービス提供者間の顔の見える関係とネットワーク構築、地域特性に応じた地域毎のシステム展開が地域包括ケアシステムのキーワードである。

2018年4月の診療報酬・介護報酬同時改定においても方向性が示され、医療機関においては医療機能の分化・強化、入退院支援の推進、介護との連携推進が評価されることとなった。われわれ病院薬剤師は、入院前から患者情報および薬物療法の把握に努め、多職種連携による入院計画や周術期管理の一役を担い、さらに退院後に自立した日常生活への復帰が可能となるよう、保険薬局薬剤師に対し入院中の薬物療法に係る詳細な情報の提供を行う必要がある。そのためには病院薬剤師と保険薬局薬剤師との連携（いわゆる薬薬連携）が不可欠であり、お互いが有する情報の正確かつスピーディーな共有が可能となるシステムの構築が今後の課題となる。

本シンポジウムでは、がん化学療法実施施設での薬薬連携に対する取り組み、地域二次医療圏における薬薬連携の運用、多職種連携による入院支援と周術期管理の展開について、4つの施設での取り組みを通し、病院薬剤師が地域包括ケアシステムの中で担うべき役割と今後取り組むべき業務の方向性を明確にし、地域偏在、地域格差がある中、NHOの各施設が今後取り組むべき地域医療連携と薬剤師の役割について考える機会とした。

キーワード 薬薬連携、入退院支援、周術期管理

はじめに

病院薬剤師は日々入院患者に対し最適で質の高い薬物療法の提供を行う職務を担っている。地域包括ケアシステムの主眼の一つである切れ目ない医療介護サービスの実現には、退院後において保険薬局薬

剤師が同様に最適で質の高い薬物療法の提供を継続的に行う必要がある。そのためには、保険薬局薬剤師は疾患や治療方針をはじめとする患者情報を適切に把握することが要求され、さらに臨床業務に必要とされるレベルと同等な知識や技術の習得が望まれるが、情報量や技術の不足は否めない。その不足を

国立病院機構金沢医療センター 薬剤部、*国立病院機構九州医療センター 薬剤部 †薬剤師
著者連絡先：秋山哲平、国立病院機構金沢医療センター 薬剤部 〒920-8650 石川県金沢市下石引町1番1号
e-mail: akiyama.teppei.yr@mail.hosp.go.jp
(2019年3月19日受付、2020年3月13日受理)

The Roles of Hospital Pharmacists in Establishing Integrated Community Based Care System
Teppei Akiyama and Takashi Nishino*, NHO Kanazawa Medical Center, *NHO Kyushu Medical Center
(Received Mar. 19, 2019, Accepted Mar. 13, 2020)

Key Words : collaboration between hospital pharmacists and community pharmacists,
support for hospitalization and discharge, perioperative management